

購読申し込みは

フリーダイヤル

0120(23)4141

日本海新聞

©新日本海新聞社 2023

2023年(令和5年)

3月22日

水曜日

号外

侍J 世界一奪還

WBC
2023

▽決勝

米 国 0 1 0 0 0 0 0 1 0 = 2
日 本 0 2 0 1 0 0 0 0 × = 3

(米) ケリー、ループ、フリーランド、アダム、ベッドナー、ウィリアムズ、リアルム、ユート (日) 今永、戸郷、高橋宏、伊藤、大勢、ダルビッシュ、大谷、中村▽本塁打 ターナー、シュワバー (以上米) 村上、岡本和 (以上日)



第5回WBCで優勝し喜ぶ日本ナイン。中央は大谷翔平=21日、マイアミ(共同)

村上、岡本弾、米国破る
ダル、大谷ら執念の継投

3大会ぶり
3度目頂点

【マイアミ(米フロリダ州) 共同】
野球の国・地域別対抗戦、第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC) 日本代表は21日、米フロリダ州マイアミで行われた決勝で前回王者の米国を3-2で下し、2009年の第2回大会以来、14年ぶり3度目の優勝を果たした。7投手をつなぐ総力戦で臨み、最後はダルビッシュ有(パドレス)、大谷翔平(エンゼルス)の継投で逃げ切った。
打線は0-1の二回に村上宗隆(ヤクルト)の自身大会初の本塁打で追い付き、さらに1死満塁からラズ・ヌートバー(カージナルス)の内野ゴロで勝ち越した。四回には岡本和真(巨人)の2号ソロでリードを広げた。先発登板した今永昇太(DenA)は2回1失点で降板し、その後は小刻みな継投に入った。八回にダルビッシュが本塁打を浴びたものの、大谷のチームメイトのマイク・トラウトらスター選手がそろった米国打線の反撃をしのいだ。
栗山英樹監督が率いる「侍ジャパン」は投打の「二刀流」大谷やダルビッシュ、吉田正尚(レッドソックス)ら大リーガーに加え、史上最年少で三冠王になった23歳の村上や完全試合を達成した21歳の佐々木朗希(ロッテ)ら国内の有望な若手も集まった。東京での1次リーグから7戦全勝で3大会ぶりにタイトルを奪還した。